

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日		富永良子		〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日		徳山 豊		〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	クリエイティブデザイン学科 ビジュアルデザインコース		平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度																															
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	色彩、デッサンなどのアナログの基礎技術から、デザインソフトの使い方、Webサイトの構築、グッズ企画など幅広いジャンルのデザインを学び、2年次からは5つの専攻に分かれて専門性を高める。さまざまな企業から受託制作の依頼を受け、企画・デザイン・納品など、在学中から実際の仕事を体験し、実践力を積み重ねる。																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	- 単位時間 132 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 126 単位	- 単位時間 6 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
360人	159人	10人		6%																																	
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 97 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 86 人</p> <p>■就職者数(E) : 85 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 76 人</p> <p>■就職率(E/D) : 99 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 89 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 88 %</p> <p>■進学者数 : 10 人</p> <p>■その他</p> <p>帰国、病気療養 (令和 5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 株式会社こだま印刷所、ウサクマ有限公司、株式会社アスカネット、有限会社アップ・トゥ・カンパニー、株式会社I.C.G.elite、吉楽株式会社、株式会社響映</p>																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -</p>																																				
当該学科のホームページURL	https://www.kid.ac.jp/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>132 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>34 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>6 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>40 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>6 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>34 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>6 単位</td></tr> </table>									総授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間	うち必修授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間	総授業時数	132 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	34 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	6 単位	うち必修授業時数	40 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	34 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	6 単位
総授業時数	- 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間																																				
うち必修授業時数	- 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間																																				
総授業時数	132 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	34 単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	6 単位																																				
うち必修授業時数	40 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	34 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	6 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>-人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>10人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	7人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	-人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	15人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	7人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	-人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																				
計	15人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編成委員会の意見を反映した次年度教育計画を策定し、校長の承認をもって次年度の教育課程編成が確定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
中野 祐介	株式会社アライバルクオリティー	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
平井 誠一	京都広告協会理事	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
川上 哲典	京都信用金庫QUESTION	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田中 小次郎	京都芸術デザイン専門学校 ビジュアルデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
渡辺 貴子	京都芸術デザイン専門学校 ビジュアルデザインコース コース担任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月29日 10:30～12:00

第2回 令和5年2月24日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「考える力」「自分で生み出す力」を育む教育手法について

- ・学ぶ目的や成長のポイントをあらかじめ説明し、学ぶことの意義を認識させる。また、インプットの重要性和、質の高い情報へのアクセスの具体的な方法を指し示すことで、授業外での自主的な成長と学びを促す。
- ・社会で求められる「デザイン基礎力」と「社会人基礎力」についてデザインの現場で求められる、模倣する能力を身につけるオマージュ作品として課題設定を設定。

K展について

- ・課題解決のためのデザインに対し、根拠を持って意味づけする→発案段階の根拠の掘り下げについて、より論理的にクリティカルに考える。
- ・聴く力と知る力を育てる。表現する力の前にそれがある。→ KIDプログラムから繋がる、本学の学びの基礎部分の強化。
- ・企業による展示会、ギフトショーや美術館での展示会に足を運ばせ、展示方法を学び経験値や自分なりのデータベースを作る。
- ・学生の教育効果と企業側のメリットのバランスを考え、積極的な連携をいただける企業選定を実施する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会と

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
クリエイティブワークB1-1	市場調査を含むマーケティングを主体的に行い、クライアントや商品の現状を理解した上でターゲット・コンセプトを設定し、グループでデザイン統一された広告宣伝物を制作する。	株式会社西田惣染工場
ビジュアル応用BⅡ-1	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。	株式会社アラキ工務店株式会社フラッ
表現応用AⅡ-4	一般企業様や行政からデザイン的な要素が必要なプロジェクトをご提案いただき、学生ならではのアイデアを駆使してプロジェクトを成功へと導く。	株式会社鈴木松風堂
表現応用BⅡ-3	実際にある企業様から出される依頼を仕事として制作する事で、社会に出たときに必要な事を経験し、学習する。	株式会社文化時報社
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	株式会社西浅 アートム株式会社 株式会社アートクリック 株式会社寺子屋 株式会社佐々木商店「彩遊館」総74社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。 ①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修 ②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修 ③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修 これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。 ①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修 ②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修 ③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修 これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： プロジェクト・マネジメント	連携企業等： コーン・フェリー・ハイグループ(株)
期間： 令和5年1月6日	対象： 教職員全員
内容	コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 学生教職員のための実践心理	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和4年10月8日	対象： 新任教員
内容	教育心理、授業運営技法
研修名： 専修学校における職業教育	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和4年11月5日	対象： 新任教員
内容	多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ
研修名： 学生教職員のための実践心理②	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和4年11月19日	対象： 新任教員
内容	教育心理、授業運営技法
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修	連携企業等： (株)エイトブランディングデザイン
期間： 令和6年1月予定	対象： 教員
内容	教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： 専門学校教育のあり方と授業実践①	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和5年10月21日	対象： 新任教員
内容	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ
研修名： 専門学校と制度	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和5年11月11日	対象： 新任教員
内容	専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ
研修名： 専門学校教育のあり方と授業実践②	連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間： 令和5年11月25日	対象： 新任教員
内容	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学修成果について

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成、学校の教育計画
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定基準、学修成果、シラバス
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、卒業者数、進学者数、就職者数
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			担任授業A I	1前	60	4		○		○		○		
2	○			デザイン技術基礎A I-1	1前	30	2		○		○			○	
3	○			デザイン技術基礎A I-2	1前	30	2		○		○			○	
4	○			デザイン技術基礎A I-3	1前	30	2		○		○			○	
5	○			クリエイティブワークA I-1	1前	30	2		○		○			○	
6	○			クリエイティブワークA I-2	1前	30	2		○		○			○	
7	○			クリエイティブワークA I-3	1前	30	2		○		○			○	
8	○			表現基礎A I-1	1前	30	2		○		○			○	
9	○			表現基礎A I-2	1前	30	2		○		○			○	
10	○			表現基礎A I-3	1前	30	2		○		○			○	
11	○			表現基礎A I-4	1前	30	2		○		○			○	
12	○			ビジュアル基礎A I-1	1前	30	2		○		○			○	
13	○			ビジュアル基礎A I-2	1前	30	2		○		○			○	
14	○			ビジュアル基礎A I-3	1前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			ビジュアル基礎A I-4	目の前のモチーフを正確に紙の上の写し取り、二次元の画面に展開し作品として完成させる。②	1前	30	2		○		○			○	
16	○			担任授業B I	進路確定に向けて、目標を明確に定め、応募書類の作成や面接に対応できるコミュニケーション力の本質を学ぶ。	1後	30	2		○				○		
17	○			クリエイティブワークB I-1	市場調査を含むマーケティングを主体的に行い、クライアントや商品の現状を理解した上でターゲット・コンセプトを設定し、グループでデザイン統一された広告宣伝物を制作する。①	1後	30	2		○		○			○	○
18	○			クリエイティブワークB I-2	市場調査を含むマーケティングを主体的に行い、クライアントや商品の現状を理解した上でターゲット・コンセプトを設定し、グループでデザイン統一された広告宣伝物を制作する。②	1後	30	2		○		○			○	○
19	○			クリエイティブワークB I-3	市場調査を含むマーケティングを主体的に行い、クライアントや商品の現状を理解した上でターゲット・コンセプトを設定し、グループでデザイン統一された広告宣伝物を制作する。③	1後	30	2		○		○			○	○
20	○			デザイン技術基礎B I-1	取り組む課題を通して、実務レベルに近い形のWEB制作を身につける。①	1後	30	2		○		○			○	
21	○			デザイン技術基礎B I-2	取り組む課題を通して、実務レベルに近い形のWEB制作を身につける。②	1後	30	2		○		○			○	
22	○			デザイン技術基礎B I-3	実務レベル級のビジュアル作成力を身につけ、K展などの制作物に反映させる。	1後	30	2		○		○			○	
23	○			表現基礎B I-1	イラストレーションの基本的な考え方、在り方を学び、制作し、それを元に商品価値のあるグッズを制作する。①	1後	30	2		○		○			○	
24	○			表現基礎B I-2	イラストレーションの基本的な考え方、在り方を学び、制作し、それを元に商品価値のあるグッズを制作する。②	1後	30	2		○		○			○	
25	○			表現基礎B I-3	取り組む課題を通して、実務レベルに近い形のWEB制作を身につける。③	1後	30	2		○		○			○	
26	○			表現基礎B I-4	取り組む課題を通して、実務レベルに近い形のWEB制作を身につける。④	1後	30	2		○		○			○	
27	○			ビジュアル基礎B I-1	課題を通じてAiとPsの技術力を高めていくと共に、アイデアを形にできる表現力、技術力を高める。①	1後	30	2		○		○			○	
28	○			ビジュアル基礎B I-2	課題を通じてAiとPsの技術力を高めていくと共に、アイデアを形にできる表現力、技術力を高める。②	1後	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
29	○		ビジュアル基礎BI-3	課題を通じてInDesignを学び、文字組やレイアウトの基本を学ぶ。 ①	1後	30	2		○		○			○	
30	○		ビジュアル基礎BI-4	課題を通じてInDesignを学び、文字組やレイアウトの基本を学ぶ。 ②	1後	30	2		○		○			○	
31	○		キャリアデザインI	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する。	1集中	30	2		○		○			○	
32	○		キャリアデザインII	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○			○	
33	○		インターンシップ	企業でのインターンシップ	1集中	210	6			○	○	○		○	
34	○		担任授業AII	視野を広く持ち、これまでの成長と成果を具体化・文章化し、進路に適した形で他者に説明することができる。	2前	30	2		○		○			○	
35		○	クリエイティブワークAII-1	講義も交えながら、幅広いジャンルの制作物で、社会に通用するグラフィックデザインを学ぶ。①	2前	90	6		○		○			○	
36		○	クリエイティブワークAII-2	デジタルコンテンツに関連する幅広い表現手法について体系的に学び、デザイン力、構成力、技術力を身につける。①	2前	90	6		○		○			○	
37		○	クリエイティブワークAII-3	イラストレーションをもとに、社会に通用するデザインスキルやアニメーション技法を身につける。①	2前	90	6		○		○			○	
38		○	クリエイティブワークAII-4	グッズ制作を通して、企画・デザインを学び、美しく仕上げる技術を身につける。①	2前	90	6		○		○			○	
39		○	クリエイティブワークAII-5	動画制作を通して、企画・撮影方法・編集を学び、社会に通用する技術を身につける。①	2前	90	6		○		○			○	
40		○	デザイン技術応用AII-1	講義も交えながら、幅広いジャンルの制作物で、社会に通用するグラフィックデザインを学ぶ。②	2前	90	6		○		○			○	
41		○	デザイン技術応用AII-2	デジタルコンテンツに関連する幅広い表現手法について体系的に学び、デザイン力、構成力、技術力を身につける。②	2前	90	6		○		○			○	
42		○	デザイン技術応用AII-3	イラストレーションをもとに、社会に通用するデザインスキルやアニメーション技法を身につける。②	2前	90	6		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		デザイン技術応用AⅡ-4	グッズ制作を通して、企画・デザインを学び、美しく仕上げる技術を身につける。②	2前	90	6		○		○			○	
		○		デザイン技術応用AⅡ-5	動画制作を通して、企画・撮影方法・編集を学び、社会に通用する技術を身につける。②	2前	90	6		○		○			○	
	○			表現応用AⅡ-1	実務で求められる、より実践的なデザインの基礎力を高める。①	2前	30	2		○		○			○	
	○			表現応用AⅡ-2	実務で求められる、より実践的なデザインの基礎力を高める。②	2前	30	2		○		○			○	
	○			表現応用AⅡ-3	実務で求められる、より実践的なデザインの基礎力を高める。③	2前	30	2		○		○			○	
	○			表現応用AⅡ-4	一般企業様や行政からデザイン的な要素が必要なプロジェクトをご提案いただき、学生ならではのアイデアを駆使してプロジェクトを成功へと導く。①	2前	30	2		○		○			○	○
	○			ビジュアル応用AⅡ-1	一般企業様や行政からデザイン的な要素が必要なプロジェクトをご提案いただき、学生ならではのアイデアを駆使してプロジェクトを成功へと導く。②	2前	30	2		○		○			○	○
	○			ビジュアル応用AⅡ-2	マーケティングのフレームワーク、制作フローを理解した上で「ぷれこん」へ向けた作品（プレゼン）の制作。①	2前	30	2		○		○			○	
	○			ビジュアル応用AⅡ-3	マーケティングのフレームワーク、制作フローを理解した上で「ぷれこん」へ向けた作品（プレゼン）の制作。②	2前	30	2		○		○			○	
	○			ビジュアル応用AⅡ-4	マーケティングのフレームワーク、制作フローを理解した上で「ぷれこん」へ向けた作品（プレゼン）の制作。③	2前	30	2		○		○			○	
	○			担任授業BⅡ	自身の考えと思いを相手に伝える言葉で表現する術を学び、最終展示の場で能動的に動くことができるようにする。	2後	30	2		○		○		○		
		○		クリエイティブワークBⅡ-1	講義も交えながら、幅広いジャンルの制作物で、より実践的なグラフィックデザインを学ぶ。①	2後	90	6		○		○			○	
		○		クリエイティブワークBⅡ-2	自身の表現したい作品を企画・デザイン・技術の側面から構想し制作する。①	2後	90	6		○		○			○	
		○		クリエイティブワークBⅡ-3	イラストレーションをもとに、社会に通用するデザインスキルやアニメーション技法を身につける。①	2後	90	6		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		クリエイティブワークBⅡ-4	商品作りを通して、関わる全てのデザインについて考え企画・制作する。また、他者と意見交換をし引き出しを増やす。楽しむ。①	2後	90	6		○		○			○	
		○		クリエイティブワークBⅡ-5	実際に動画を制作することで専門知識（企画・撮影・編集）を身につける。①	2後	90	6		○		○			○	○
		○		デザイン技術応用BⅡ-1	講義も交えながら、幅広いジャンルの制作物で、より実践的なグラフィックデザインを学ぶ。②	2後	60	4		○		○			○	
		○		デザイン技術応用BⅡ-2	自身の表現したい作品を企画・デザイン・技術の側面から構想し制作する。②	2後	60	4		○		○			○	
		○		デザイン技術応用BⅡ-3	イラストレーションをもとに、社会に通用するデザインスキルやアニメーション技法を身につける。②	2後	60	4		○		○			○	
		○		デザイン技術応用BⅡ-4	商品作りを通して、関わる全てのデザインについて考え企画・制作する。また、他者と意見交換をし引き出しを増やす。楽しむ。②	2後	60	4		○		○			○	
		○		デザイン技術応用BⅡ-5	実際に動画を制作することで専門知識（企画・撮影・編集）を身につける。②	2後	60	4		○		○			○	○
	○			表現応用BⅡ-1	1. 抽象的なテーマから魅力的な事柄を見つけ出し、商品のパッケージデザインとして表現を行う。 2. 実務で求められる実践的なコーディング技術を身につける。 3. 卒業後の自身の目標に合わせ課題を選び、動画表現の幅を広げる。 ①	2後	30	2		○		○			○	
	○			表現応用BⅡ-2	1. 抽象的なテーマから魅力的な事柄を見つけ出し、商品のパッケージデザインとして表現を行う。 2. 実務で求められる実践的なコーディング技術を身につける。 3. 卒業後の自身の目標に合わせ課題を選び、動画表現の幅を広げる。 ②	2後	30	2		○		○			○	
	○			表現応用BⅡ-3	実際にある企業様から出される依頼を仕事として制作する事で、社会に出たときに必要な事を経験し、学習する。①	2後	30	2		○		○			○	○
	○			表現応用BⅡ-4	実際にある企業様から出される依頼を仕事として制作する事で、社会に出たときに必要な事を経験し、学習する。②	2後	30	2		○		○			○	○
	○			ビジュアル応用BⅡ-1	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。①	2後	30	2		○		○			○	○
	○			ビジュアル応用BⅡ-2	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。②	2後	30	2		○		○			○	○
	○			ビジュアル応用BⅡ-3	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。③	2後	30	2		○		○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ビジュアルデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
71	○		ビジュアル応用BⅡ-4	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。④	2後	30	2	○			○			○	○
72	○		ビジュアル応用BⅡ-5	マーケティングのフレームワーク、実践的な制作フローを踏んでグループにてプロモーションツールを制作する。⑤	2後	30	2	○			○			○	○
合計					72	科目		132(2100)			単位(単位時間)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 授業時間2,100時間以上（132単位以上）の修得が卒業要件。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日		富永良子		〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日		徳山 豊		〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程		クリエイティブデザイン学科 インテリアデザインコース		平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度		
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	住宅設計や商業施設の内装、雑貨・家具など幅広くインテリア業界におけるスペシャリストを養成。建築設計・加工管理に携わるために必要となる法規、構造、施工、計画についての基礎知識を学び2級建築士受験資格(インテリアデザインコース デザイン専攻※2024年度から「住宅・店舗デザイン専攻」に名称変更)を取得することができる。インテリアデザインコース デザイン専攻(2024年度から「住宅・店舗デザイン専攻」に名称変更)については、卒業と同時に2級建築士受験資格を取得できるカリキュラムであるため、132単位を超えて受験資格取得に必要な単位を修得。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	- 単位時間 132 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 126 単位	- 単位時間 6 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
360 人	86 人	5 人		6 %					
就職等の状況	■ 卒業者数 (C)		42 人						
	■ 就職希望者数 (D)		38 人						
	■ 就職者数 (E)		38 人						
	■ 地元就職者数 (F)		36 人						
	■ 就職率 (E/D)		100 %						
	■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		95 %						
	■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		90 %						
	■ 進学者数		3 人						
	■ その他								
	帰国								
(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)									
■ 主な就職先、業界等									
(令和5年度卒業生)									
(株)日展、(株)アルカニック、(株)匠工房、(株)フクイ工務店、(有)岸崎工作所、garDEN(株)、(株)アーネストワン、(株)サンコウホーム(株)エリッツホールディングス、(株)ファーストニシカワ、(株)アイビ建築、(株)山海木工、(株)70B									
第三者による学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科のホームページ URL	https://www.kid.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				- 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				- 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数				- 単位時間					
うち必修授業時数				- 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				- 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				- 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				- 単位時間					
(B: 単位数による算定)									
総授業時数				132 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				6 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数				24 単位					
うち必修授業時数				30 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				6 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				24 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				6 単位					
教員の属性 (専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				6 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				7 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				- 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人				
	計				15 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員 (分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定) の数				10 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編成委員会の意見を反映した次年度教育計画を策定し、校長の承認をもって次年度の教育課程編成が確定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
小川 英樹	株式会社日展 西地区事業本部 開発プロデュース部	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
上村 裕美子	インテリアコーディネーター協会関西	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
波多野 賢	株式会社リヴ	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 インテリアデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 インテリアデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年11月21日 15:30～17:00

第2回 令和5年2月24日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

▼「考える力」「自分で生み出す力」を育む教育手法とは

企業協働授業において、企業の方に授業参加していただいているが、あくまでも学生は自分目線で考えている。授業内で、様々な立場でのロールプレイングディスカッションを取り入れる。様々な立場、視点に立って考えることで、多様性、SDGsに対応ができる提案ができることを目指す。

▼次年度教育計画における強化ポイントについて

情報収集から、課題点を見つけ、解決のためのコンセプトまでは、カリキュラム化に一定の成果。コンセプトを活かした形に至る点で手が止まることが多いことへのコースからの課題提示に対してのご意見を反映し、下記の取り組みを実施。

・企画を中心とした授業から、1:1スケールでの体感型制作演習への改編を行うことで、リアルなスケール感覚を身につけるよう授業内容を工夫。コミュニティデザイン/新設:公共の場で多様な人が暮らしやすい環境を提案するために、コミュニティデザインを意識することを科目名として明示・内容特化。

・指導方法をラフスケッチから始めるのではなく、コラージュからはじめたり、様々なソフトやツールを活用し、学生が自分らしい表現を追求できるような授業運営への取り組み強化。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリア技術基礎A I-1	イオンモール京都五条様のモール内を“SDGs×映え”クリスマスツリー10点で演出。 ・ターゲット層:イオンモールの顧客(ファミリー層)の目線を理解する。 ・3つのスキルを活かした企画・デザイン・提案力を身につける。 ①造形力②工程管理力③スケジュール管理 チームワーク・コスト管理・製作クオリティについて、自己管理できることを目的とする。	株式会社モダンパラダイス
企画デザイン基礎B I-2	イオンモール京都五条様のモール内を“SDGs×映え”クリスマスツリー10点で演出。 ・ターゲット層:イオンモールの顧客(ファミリー層)の目線を理解する。 ・3つのスキルを活かした企画・デザイン・提案力を身につける。 ①造形力②工程管理力③スケジュール管理 チームワーク・コスト管理・製作クオリティについて、自己管理できることを目的とする。	株式会社モダンパラダイス
インテリア技術基礎A I-1	京町家の魅力を活かし、コミュニティにおいて人々が交流する場として、リノベーションとビジネスモデルの提案を行う。協働ワークにおいてリーダーシップを取り、チームに貢献できるようになる	株式会社八清
インテリア技術応用A II-3	京町家の魅力を活かし、コミュニティにおいて人々が交流する場として、リノベーションとビジネスモデルの提案を行う。協働ワークにおいてリーダーシップを取り、チームに貢献できるようになる	株式会社八清
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	株式会社びわこホーム、株式会社70B、株式会社ローバー都市建築事務所、株式会社らく・デザイン、株式会社デザオ建設 総58社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。

- ①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修
- ②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修
- ③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修

これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プロジェクト・マネジメント	連携企業等:	コーン・フェリー・ハイグループ(株)
期間:	令和5年1月6日	対象:	教職員全員
内容:	コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生教職員のための実践心理	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年10月8日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

研修名:	専修学校における職業教育	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月5日	対象:	新任教員
内容:	多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ		

研修名:	学生教職員のための実践心理②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月19日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修	連携企業等:	(株)エイトブランディングデザイン
期間:	令和6年1月予定	対象:	教員
内容:	教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践①	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年10月21日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

研修名:	専門学校と制度	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月11日	対象:	新任教員
内容:	専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ		

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月25日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学修成果について

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成、学校の教育計画
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定基準、学修成果、シラバス
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、卒業者数、進学者数、就職者数
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科インテリアデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		担任授業A I	社会人基礎力・デザイン基礎力に必要なスキルについて学ぶ。	1前	60	4	○			○		○		
2	○		企画デザイン基礎A I-1	手描きからデジタルまで、空間のビジュアル表現を身につける。 ①	1前	30	2	○			○			○	
3	○		企画デザイン基礎A I-2	手描きからデジタルまで、空間のビジュアル表現を身につける。 ②	1前	30	2	○			○			○	
4	○		企画デザイン基礎A I-3	インテリアに必要な専門知識を、テキストを活用して学ぶ。 ①	1前	30	2	○			○			○	
5	○		企画デザイン基礎A I-4	インテリアに必要な専門知識を、テキストを活用して学ぶ。 ②	1前	30	2	○			○			○	
6	○		制作演習基礎A I-1	インテリアスタイルに必要な専門知識を、事例から学ぶ。 ①	1前	30	2	○			○			○	
7	○		制作演習基礎A I-2	インテリアスタイルに必要な専門知識を、事例から学ぶ。 ②	1前	30	2	○			○			○	
8	○		インテリア技術基礎A I-1	企業と協働しながらデザインで課題解決に取り組む。 ①	1前	30	2	○			○			○	○
9	○		インテリア技術基礎A I-2	企業と協働しながらデザインで課題解決に取り組む。 ②	1前	30	2	○			○			○	○
10	○		製図基礎	建築の空間や物品のスケール感や製図のルールを身につける。	1前	60	4	○			○			○	
11	○		プレゼン表現基礎 I	模型制作を通じて空間把握能力・立体把握能力を身につける。	1前	60	4	○			○			○	
12	○		設計基礎A I-1	設計図の基本の型を身につける。 ①	1前	30	2	○			○			○	
13	○		設計基礎A I-2	設計図の基本の型を身につける。 ②	1前	30	2	○			○			○	
14	○		担任授業B I	企業研究・業界研究に基づいて、1年間の学びを編集し、進路決定準備ができる。	1後	30	2	○			○		○		
15	○		企画デザイン基礎B I-1	ビジュアル表現に必要なレイアウトデザインの手法を身につける。 ①	1後	30	2	○			○			○	○
16	○		企画デザイン基礎B I-2	ビジュアル表現に必要なレイアウトデザインの手法を身につける。 ②	1後	30	2	○			○			○	○
17	○		企画デザイン基礎B I-3	クリスマスディスプレイやK展に必要な展示空間の企画制作力を身につける。 ①	1後	30	2	○			○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科インテリアデザインコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		企画デザイン基礎B I-4	さまざまな、インテリアコーディネートを学び、基礎知識を身につける。 ①	1後	30	2		○		○				○
		○		制作演習基礎B I-1	雑貨や家具の商品化を目指すために必要な知識と制作技術を身につける。 ①	1後	30	2		○		○				○
		○		制作演習基礎B I-2	雑貨や家具の商品化を目指すために必要な知識と制作技術を身につける。 ②	1後	30	2		○		○				○
		○		制作演習基礎B I-3	さまざまな、インテリアコーディネートを学び、基礎知識を身につける。 ②	1後	30	2		○		○				○
	○			インテリア技術基礎B I-1	クリスマスディスプレイやK展に必要な展示空間の企画制作力を身につける。 ②	1後	30	2		○		○				○ ○
	○			インテリア技術基礎B I-2	課題を解決に導くアイデアを具体的に提案するために必要なプレゼン力を身につける。 ①	1後	30	2		○		○				○
	○			インテリア技術基礎B I-3	課題を解決に導くアイデアを具体的に提案するために必要なプレゼン力を身につける。 ②	1後	30	2		○		○				○
	○			設計基礎B I-1	住宅や店舗設計に必要な図面の描き方を身につける。 ①	1後	30	2		○		○				○
	○			設計基礎B I-2	住宅や店舗設計に必要な図面の描き方を身につける。 ②	1後	30	2		○		○				○
		○		住宅設計演習	住宅に必要な設計手法を身につける。	1後	60	4		○		○				○
		○		建築計画	建築計画の知識をテキストに沿って学習する。	1後	30	2	○			○				○
		○		建築一般構造	建築一般構造の知識をテキストに沿って学習する。	1後	30	2	○			○				○
		○		建築法規	建築法規の知識をテキストに沿って学習する。	1後	30	2	○			○				○
	○			プレゼン表現基礎Ⅱ	住宅や店舗設計に必要な3DCGパースの描き方を身につける。	1後	60	4		○		○				○
		○		デザイン史	デザイン史の知識をテキストに沿って学習する。	1後	30	2		○		○				○
	○			キャリアデザインⅠ	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する。	1集中	30	2		○		○				○
	○			キャリアデザインⅡ	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科インテリアデザインコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
35	○			インターンシップ	企業とのインターンシップ	1集中	##	6			○		○	○		○
36	○			担任授業AⅡ	企業研究に基づいて、1年間の学びを編集し、進路決定準備ができる。	2前	30	2			○			○		
37	○			企画デザイン応用AⅡ-1	伝わるプレゼンテーション資料や企画書を作成し、提案する。①	2前	30	2			○					○
38	○			企画デザイン応用AⅡ-2	伝わるプレゼンテーション資料や企画書を作成し、提案する。②	2前	30	2			○					○
39		○		企画デザイン応用AⅡ-3	さまざまなインテリアスタイルを学び、基礎知識として身につける。①	2前	30	2			○					○
40		○		企画デザイン応用AⅡ-4	さまざまなインテリアスタイルを学び、基礎知識として身につける。②	2前	30	2			○					○
41		○		制作演習応用AⅡ-1	商業空間のプロセスやデザイン力を身につける。①	2前	30	2			○					○
42		○		制作演習応用AⅡ-2	商業空間のプロセスやデザイン力を身につける。②	2前	30	2			○					○
43		○		制作演習応用AⅡ-3	商業空間にシナリオに合わせた商品を企画し、デザイン力を身につける。①	2前	30	2			○					○
44	○			インテリア技術応用AⅡ-1	インテリア雑貨の企画のプロセスや制作技術を身につける。①	2前	30	2			○					○
45	○			インテリア技術応用AⅡ-2	インテリア雑貨の企画のプロセスや制作技術を身につける。②	2前	30	2			○					○
46	○			インテリア技術応用AⅡ-3	企業と協働しながらデザインで課題解決に取り組む。①	2前	30	2			○					○ ○
47	○			インテリア技術応用AⅡ-4	企業と協働しながらデザインで課題解決に取り組む。②	2前	30	2			○					○ ○
48		○		設計応用AⅡ-1	シナリオに合わせた複数のプランニングを提案し、計画力を身につける。①	2前	30	2			○					○
49		○		設計応用AⅡ-2	シナリオに合わせた複数のプランニングを提案し、計画力を身につける。②	2前	30	2			○					○
50		○		設計応用AⅡ-3	商業空間にシナリオに合わせた商品を企画し、デザイン力を身につける。②	2前	30	2			○					○
51		○		リノベーション企画	日常空間・事例研究などから、空間のリノベーションの手法を学ぶ。	2前	30	2	○				○			○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科インテリアデザインコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○		構造力学	構造力学の基礎知識をテキストに沿って学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○		建築施工	建築施工の基礎知識をテキストに沿って学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○		建築材料	建築材料の基礎知識をテキストに沿って学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○		詳細設計演習	木造住宅の詳細設計を身につける。	2前	60	4		○		○			○	
	○			プレゼン表現応用 I	意図が人に伝わるグラフィックデザインができる。	2前	60	4		○		○			○	
	○			担任授業B II	2年間の学びで得たデザイン基礎力と社会人基礎力を振り返り、実践力として身につける。	2後	30	2		○		○		○		
	○			企画デザイン応用B II-1	社会の課題を解決に導くデザインを提案するために必要なプレゼン力を身につける。 ①	2後	30	2		○		○			○	
	○			企画デザイン応用B II-2	社会の課題を解決に導くデザインを提案するために必要なプレゼン力を身につける。 ②	2後	30	2		○		○			○	
	○			プレゼン表現応用 II	建築空間を効果的な表現で視覚化するために、モデリングとレンダリングを手法を身につける。	2後	60	4		○		○			○	
合計						71 科目		132 (2100) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 授業時間2,100時間以上（132単位以上）の修得が卒業要件。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。インテリアデザインコース デザイン専攻（2024年度から「住宅・店舗デザイン専攻」に名称変更）については、卒業と同時に2級建築士受験資格を取得できるカリキュラムであるため、132単位を超えて受験資格取得に必要な単位（140単位2200単位時間）を修得。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																														
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日	富永良子	〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																														
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日	徳山 豊	〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
商業実務	商業実務専門課程	クリエイティブデザイン学科 ファッションクリエイトコース	平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度																													
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ミシンの使い方やデザインの考え方を基礎から学び、商品の製作・企画を行い学校が運営する店舗で服やアイテムなどを実際に販売。また、インターネット上での販売も行い、商品の撮影や加工、通販サイトの運営などのスキルをファッション業界で求められる幅広い知識や技術を身につける。																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 - 単位時間 132 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 126 単位	- 単位時間 6 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
360人	37人	1人	3%																															
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 16 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 13 人</p> <p>■就職者数(E) : 13 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 13 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 81 %</p> <p>■進学者数 : 1 人</p> <p>■その他 : なし</p> <p>(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ㈱ファイブフォックス、トミー ヒルフィガー、㈲キャピタル、㈱シーズン クラフトバザール、㈱ワールドインダストリーファブリック</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.kid.ac.jp/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>132 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>6 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>26 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>6 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>6 単位</td></tr> </table>						総授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間	うち必修授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間	総授業時数	132 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	6 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	20 単位	うち必修授業時数	26 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	20 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	6 単位
総授業時数	- 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間																																	
うち必修授業時数	- 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間																																	
総授業時数	132 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	6 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	20 単位																																	
うち必修授業時数	26 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	6 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	20 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	6 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>-人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>10人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	7人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	-人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	15人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	7人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	-人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																	
計	15人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編成委員会の意見を反映した次年度教育計画を策定し、校長の承認をもって次年度の教育課程編成が確定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月20日現在

名前	所属	任期	種別
能口 祥子	一般社団法人きものカラーコーディネーター協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
北次 孝得	北次株式会社	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
首藤 卓	株式会社三陽商会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
山田 菜月	株式会社三陽商会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
武田 規央	京都芸術デザイン専門学校 ファッションデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月15日 10:30～12:00

第2回 令和5年2月27日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

●ペルソナがどのように自社の商品を知るのか?どのように訴求していくのか?どのように買いたいと思わせるのか?がプレゼンテーションに不足している。ブランディング作成の際に、「ペルソナへの情報発信方法・アプローチ手法・購入したくなる仕掛け」を追加する。

●2年時のプレゼン指導において、「型通りのプレゼン」から、学生自身が、「何を目的として、何を伝えたいのか?」を考え、組み立てるプレゼン指導を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会と

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
服飾造形応用AⅡ-1	クライアントワークとして、クライアントの要求に応え、地元京都のアイドルグループの衣装企画、デザイン、制作を通して、問題発見力・発想力・視覚化力・プレゼン力の強化を目的に実施する。	株式会社 京都コレクション&エンターテイメント
服飾造形応用AⅡ-2	クライアントワークとして、クライアントの要求に応え、地元京都のアイドルグループの衣装企画、デザイン、制作を通して、問題発見力・発想力・視覚化力・プレゼン力の強化を目的に実施する。	株式会社 京都コレクション&エンターテイメント
服飾造形応用AⅡ-3	クライアントワークとして、クライアントの要求に応え、地元京都のアイドルグループの衣装企画、デザイン、制作を通して、問題発見力・発想力・視覚化力・プレゼン力の強化を目的に実施する。	株式会社 京都コレクション&エンターテイメント
プロダクション基礎AⅡ-1	クライアントワークとして、クライアントの要求に応え、地元京都のアイドルグループの衣装企画、デザイン、制作を通して、問題発見力・発想力・視覚化力・プレゼン力の強化を目的に実施する。	株式会社 京都コレクション&エンターテイメント
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	株式会社クラウドディア、岩本繊維株式会社、株式会社ノムラアートプラント、モンドフィル株式会社、株式会社谷川 総14社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。

①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修

②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修

③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修

これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プロジェクト・マネジメント	連携企業等:	コーン・フェリー・ハイグループ(株)
期間:	令和5年1月6日	対象:	教職員全員
内容:	コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生教職員のための実践心理	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年10月8日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

研修名:	専修学校における職業教育	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月5日	対象:	新任教員
内容:	多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ		

研修名:	学生教職員のための実践心理②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月19日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修	連携企業等:	(株)エイトブランディングデザイン(予定)
期間:	令和6年1月予定	対象:	教員
内容:	教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践①	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年10月21日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

研修名:	専門学校と制度	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月11日	対象:	新任教員
内容:	専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ		

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月25日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学修成果について

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成、学校の教育計画
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定基準、学修成果、シラバス
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、卒業者数、進学者数、就職者数
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		#####		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			担任授業A I	デザイン発想力、社会人基礎力に必要なスキルを学ぶ。	1前	60	4		○		○				
2	○			服飾造形基礎A I-1	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ①	1前	30	2		○		○				○
3	○			服飾造形基礎A I-2	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ②	1前	30	2		○		○				○
4	○			服飾造形基礎A I-3	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ③	1前	30	2		○		○				○
5	○			商品企画基礎A1-1	Illustrator、Photoshop、プレゼンテーション資料作成基礎 ①	1前	30	2		○		○				○
6	○			商品企画基礎A1-2	Illustrator、Photoshop、プレゼンテーション資料作成基礎 ②	1前	30	2		○		○				○
7	○			商品企画基礎A1-3	ファッションビジネス基礎(ショップを起点に学習)	1前	30	2		○		○				○
8	○			ファッション表現基礎A I-1	ファッションの写真撮影技術基礎 ①	1前	30	2		○		○				○
9	○			ファッション表現基礎A I-2	ファッションの写真撮影技術基礎 ②	1前	30	2		○		○				○
10	○			ファッション表現基礎A I-3	カラーコーディネート基礎	1前	30	2		○		○				○
11	○			造形演習基礎A I-1	ファッションデザイン画基礎①	1前	30	2		○		○				○
12	○			造形演習基礎A I-2	ファッションデザイン画基礎②	1前	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		#####	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
13	○			プロダクション基礎A I-1	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ④	1前	30	2		○		○		○	
14	○			プロダクション基礎A I-2	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ⑤	1前	30	2		○		○		○	
15	○			プロダクション基礎A I-3	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ⑥	1前	30	2		○		○		○	
16	○			担任授業B I	・自己PR基礎(ポートフォリオ作成、プレゼンテーション習得) ・就活知識の習得、就活ツールの制作	1後	30	2		○			○		
17	○			服飾造形基礎B I-1	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ①	1後	30	2		○		○		○	
18	○			服飾造形基礎B I-2	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ②	1後	30	2		○		○		○	
19	○			服飾造形基礎B I-3	・パターン基礎 ・縫製基礎(基本アイテム) ③	1後	30	2		○		○		○	
20	○			商品企画基礎B I-1	ショップ企画、運営、商品企画 ①	1後	30	2		○		○		○	
21	○			商品企画基礎B I-2	ショップ企画、運営、商品企画 ②	1後	30	2		○		○		○	
22	○			商品企画基礎B I-3	スタイリング基礎 ①	1後	30	2		○		○		○	
23	○			ファッション表現基礎B I-1	スタイリング基礎 ②	1後	30	2		○		○		○	
24	○			ファッション表現基礎B I-2	・K展企画書作成・デザイン画応用 ①	1後	30	2		○		○		○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		#####		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			ファッション表現基礎B I-3	・K展企画書作成・デザイン画応用 ②	1後	30	2		○		○			○	
26	○			造形演習基礎B I-1	・服装史、デザイン史からのデザイン手法 ・課題発見、問題解決のデザイン手法 ①	1後	30	2		○		○			○	
27	○			造形演習基礎B I-2	・服装史、デザイン史からのデザイン手法 ・課題発見、問題解決のデザイン手法 ②	1後	30	2		○		○			○	
28	○			プロダクション基礎B I-1	・パターン基礎 ・縫製基礎 (基本アイテム) ④	1後	30	2		○		○			○	
29	○			プロダクション基礎B I-2	・パターン基礎 ・縫製基礎 (基本アイテム) ⑤	1後	30	2		○		○			○	
30	○			プロダクション基礎B I-3	・パターン基礎 ・縫製基礎 (基本アイテム) ⑥	1後	30	2		○		○			○	
31	○			キャリアデザイン I	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する	1集中	30	2		○		○			○	
32	○			キャリアデザイン II	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○			○	
33	○			インターンシップ	企業とのインターンシップ	1集中	210	6			○	○			○	○
34	○			担任授業A II	社会人基礎力を充実させ、相手に伝えることを意識した表現を学ぶ(発想プロセス・プレゼンテーション)	2前	30	2		○		○			○	
35	○			服飾造形応用A II-1	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ①	2前	30	2		○		○			○	○
36	○			服飾造形応用A II-2	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ②	2前	30	2		○		○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		#####		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37	○			服飾造形応用AⅡ-3	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ③	2 前	30	2		○		○			○	○
38	○			商品企画応用AⅡ-1	ショップ企画、運営、商品企画 実習 ①	2 前	30	2		○		○			○	
39	○			商品企画応用AⅡ-2	ショップ企画、運営、商品企画 実習 ②	2 前	30	2		○		○			○	
40	○			商品企画応用AⅡ-3	・ECサイト企画、運営 ・ECマーケティング基礎 ①	2 前	30	2		○		○			○	
41	○			ファッション表現応用AⅡ-1	ポートフォリオ制作応用	2 前	30	2		○		○			○	
42	○			ファッション表現応用AⅡ-2	ブランディング基礎	2 前	30	2		○		○			○	
43	○			ファッション表現応用AⅡ-3	・ECサイト企画、運営 ・ECマーケティング基礎 ②	2 前	30	2		○		○			○	
44	○			造形演習応用AⅡ-1	・デザイン画応用、ハンガー イラスト ・デザイン画作成 ①	2 前	30	2		○		○			○	
45	○			造形演習応用AⅡ-2	・デザイン画応用、ハンガー イラスト ・デザイン画作成 ②	2 前	30	2		○		○			○	
46	○			プロダクション基礎AⅡ-1	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ④	2 前	30	2		○		○			○	○
47	○			プロダクション基礎AⅡ-2	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ⑤	2 前	30	2		○		○			○	○
48	○			プロダクション基礎AⅡ-3	・制作(応用アイテム) ・企業連携制作 ⑥	2 前	30	2		○		○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		#####	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
49	○			担任授業BⅡ	・自己PR応用(デザイン発想プロセス、プレゼンテーション習得) ・社会人スキル習得	2後	30	2		○			○		
50	○			服飾造形応用BⅡ-1	企業連携制作(K展作品) ①	2後	30	2		○					○
51	○			服飾造形応用BⅡ-2	企業連携制作(K展作品) ②	2後	30	2		○					○
52	○			服飾造形応用BⅡ-3	企業連携展(K展)展示作品制作③	2後	30	2		○					○
53	○			商品企画応用BⅡ-1	K展ブランド企画、ディスプレイ計画、販促ツール作成 ①	2後	30	2		○					○
54	○			商品企画応用BⅡ-2	K展ブランド企画、ディスプレイ計画、販促ツール作成 ②	2後	30	2		○					○
55	○			商品企画応用BⅡ-3	立体的断、ドレーピング基礎①	2後	30	2		○					○
56	○			ファッション表現応用BⅡ-1	立体的断、ドレーピング基礎②	2後	30	2		○					○
57	○			ファッション表現応用BⅡ-2	・素材知識の習得 ・素材、デザインの関係性を理解したデザイン習得①	2後	30	2		○					○
58	○			ファッション表現応用BⅡ-3	・素材知識の習得 ・素材、デザインの関係性を理解したデザイン習得②	2後	30	2		○					○
59	○			造形演習応用BⅡ-1	web・ECサイト制作 ①	2後	30	2		○					○
60	○			造形演習応用BⅡ-2	web・ECサイト制作 ②	2後	30	2		○					○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ファッションクリエイティブコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		#####		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
61	○			プロダクション基礎BⅡ-1	企業連携制作(K展作品) ①	2 後	30	2		○		○			○	
62	○			プロダクション基礎BⅡ-2	企業連携制作(K展作品) ②	2 後	30	2		○		○			○	
63	○			プロダクション基礎BⅡ-3	企業連携制作(K展作品) ③	2 後	30	2		○		○			○	
合計							63	科目		132(2100)			単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 授業時間2,100時間以上(132単位以上)の修得が卒業要件。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日		富永良子		〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日		徳山 豊		〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	商業実務専門課程	クリエイティブデザイン学科 ハンドメイドコース		平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度			
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	多彩な素材を使ったアクセサリ、バッグ、ファッション雑貨など「ものづくり」の実践的なスキルを修得。商品の製作・企画を行い学校が運営する店舗でアクセサリや雑貨などを実際に販売し、商品企画から販売する一連の流れを学ぶ。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
		132 単位		- 単位	126 単位	6 単位	- 単位	- 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
360 人	44 人	2 人		5 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		21 人						
	■就職希望者数(D)		20 人						
	■就職者数(E)		20 人						
	■地元就職者数(F)		17 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		85 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	なし								
(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等									
(令和4年度卒業生)									
北次株式会社、株式会社ヨシカワ、株式会社貴瞬、秀和株式会社、(株)D.S.									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無						
※有の場合、例えば以下について任意記載									
評価団体: -		受審年月: -		評価結果を掲載したホームページURL -					
当該学科のホームページURL	https://www.kid.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				- 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				- 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				- 単位時間				
	うち必修授業時数				- 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				- 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				- 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				- 単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				132 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				6 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数				16 単位					
うち必修授業時数				22 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				6 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				16 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				6 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6 人				
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		7 人				
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		- 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人				
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1 人				
	計				15 人				
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				10 人				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月20日現在

名前	所属	任期	種別
能口 祥子	一般社団法人きものカラーコーディネーター協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
北次 孝得	北次株式会社	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
首藤 卓	株式会社三陽商会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
山田 菜月	株式会社三陽商会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
武田 規央	京都芸術デザイン専門学校 ファッションデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれかに該当するが記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識・技術・技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（11月、3月）

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月15日 10:30～12:00

第2回 令和5年2月27日 10:30～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・ペルソナがどのように自社の商品を知るか？どのように訴求していくのか？どのように買いたいと思わせるのか？がプレゼンテーションに不足している。プランニング作成の際に、「ペルソナへの情報発信方法・アプローチ手法・購入したくなる仕掛け」を追加する。

・2年時のプレゼン指導において、「型通りのプレゼン」から、学生自身が、「何を目的として、何を伝えたいのか？」を考え、組み立てるプレゼン指導を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会と

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
造形実習基礎A I -3	サステナブルをテーマに、素材産地等で出た端材、廃材、B反等の市場流通が困難な材料を使用し、新しいアパレル・ファッション雑貨を企画制作されている。サステナブルをテーマとした新規ブランドを持ち、コース指導方針における授業内容との、合致した取組みが可能なため選定。	株式会社ニッセン
商品企画基礎A I -3	サステナブルをテーマに、素材産地等で出た端材、廃材、B反等の市場流通が困難な材料を使用し、新しいアパレル・ファッション雑貨を企画制作されている。サステナブルをテーマとした新規ブランドを持ち、コース指導方針における授業内容との、合致した取組みが可能なため選定。	株式会社ニッセン
プロダクション基礎A I -3	サステナブルをテーマに、素材産地等で出た端材、廃材、B反等の市場流通が困難な材料を使用し、新しいアパレル・ファッション雑貨を企画制作されている。サステナブルをテーマとした新規ブランドを持ち、コース指導方針における授業内容との、合致した取組みが可能なため選定。	株式会社ニッセン
ハンドメイド表現応用A II -3	商品販売教育の実践にあたり、イオンモール京都五条様と連携し、ワークショップの企画・運営を実施する。中核授業である商品販売教育において、集客力、販売促進力、接客オペレーションの3点の強化を目的とする。	イオンモール株式会社(イオンモール京都)
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	有限会社丸益西村屋、株式会社アカネス、サンワード株式会社、株式会社西村靴、秀和株式会社 総24社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。

- ①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修
- ②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修
- ③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修

これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プロジェクト・マネジメント	連携企業等:	コーン・フェリー・ヘイグループ(株)
期間:	令和5年1月6日	対象:	教職員全員
内容	コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生教職員のための実践心理	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年10月8日	対象:	新任教員
内容	教育心理、授業運営技法		
研修名:	専修学校における職業教育	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月5日	対象:	新任教員
内容	多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ		
研修名:	学生教職員のための実践心理②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月19日	対象:	新任教員
内容	教育心理、授業運営技法		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修	連携企業等:	(株)エイトブランディングデザイン
期間:	令和6年1月予定	対象:	教員
内容	教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践①	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年10月21日	対象:	新任教員
内容	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

研修名:	専門学校と制度	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月11日	対象:	新任教員
内容	専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ		

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月25日	対象:	新任教員
内容	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学修成果について

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成、学校の教育計画
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定基準、学修成果、シラバス
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、卒業者数、進学者数、就職者数
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		担任授業A I	デザイン発想力、社会人基礎力に必要なスキルを学ぶ	1前	60	4		○		○		○		
2	○		造形実習基礎A I-1	・型紙基礎 ・バッグ制作(基本アイテム) ①	1前	30	2		○		○			○	
3	○		造形実習基礎A I-2	・型紙基礎 ・バッグ制作(基本アイテム) ②	1前	30	2		○		○			○	
4	○		造形実習基礎A I-3	・雑貨デザイン基礎 ・アクセサリ、雑貨制作 ①	1前	30	2		○		○			○	○
5	○		商品企画基礎A I-1	ファッション雑貨の写真撮影技術基礎 ①	1前	30	2		○		○			○	
6	○		商品企画基礎A I-2	ファッション雑貨の写真撮影技術基礎 ②	1前	30	2		○		○			○	
7	○		商品企画基礎A I-3	・雑貨デザイン基礎 ・アクセサリ、雑貨制作 ②	1前	30	2		○		○			○	○
8	○		ハンドメイド表現基礎A I-1	カラーコーディネート基礎	1前	30	2		○		○			○	
9	○		ハンドメイド表現基礎A I-2	・型紙基礎 ・革製品制作(基本アイテム) ①	1前	30	2		○		○			○	
10	○		ハンドメイド表現基礎A I-3	・型紙基礎 ・革製品制作(基本アイテム) ②	1前	30	2		○		○			○	
11	○		ハンドメイド表現基礎A I-4	ファッションビジネス基礎(ショップを起点に学習)	1前	30	2		○		○			○	
12	○		プロダクション基礎A I-1	Illustrator、Photoshop、プレゼンテーション資料作成基礎 ①	1前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
13	○			プロダクション基礎A I-2	Illustrator、Photoshop、プレゼンテーション資料作成基礎 ②	1前	30	2		○		○			○	
14	○			プロダクション基礎A I-3	・雑貨デザイン基礎 ・アクセサリー、雑貨制作 ③	1前	30	2		○		○			○	○
15	○			プロダクション基礎A I-4	・雑貨デザイン基礎 ・アクセサリー、雑貨制作 ④	1前	30	2		○		○			○	○
16	○			担任授業B I	・自己PR基礎(ポートフォリオ作成、プレゼンテーション習得) ・就活知識の習得、就活ツールの制作	1後	30	2		○		○				
17	○			造形実習基礎B I-1	・型紙基礎 ・バッグ制作(基本アイテム) ①	1後	30	2		○		○			○	
18	○			造形実習基礎B I-2	・型紙基礎 ・バッグ制作(基本アイテム) ②	1後	30	2		○		○			○	
19	○			造形実習基礎B I-3	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(彫金) ①	1後	30	2		○		○			○	
20	○			商品企画基礎B I-1	テキスタイルデザイン基礎(インクジェット・シルクスクリーン) ①	1後	30	2		○		○			○	
21	○			商品企画基礎B I-2	ショップ企画、運営、商品企画 ①	1後	30	2		○		○			○	
22	○			商品企画基礎B I-3	ショップ企画、運営、商品企画 ②	1後	30	2		○		○			○	
23	○			ハンドメイド表現基礎B I-1	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(彫金) ②	1後	30	2		○		○			○	
24	○			ハンドメイド表現基礎B I-2	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(彫金) ③	1後	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
25	○			ハンドメイド表現基礎B I-3	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(彫金) ④	1後	30	2		○		○				○
26	○			ハンドメイド表現基礎B I-4	テキスタイルデザイン基礎(インクジェット・シルクスクリーン) ②	1後	30	2		○		○				○
27	○			プロダクション基礎B I-1	・型紙基礎 ・革製品制作(基本アイテム) ①	1後	30	2		○		○				○
28	○			プロダクション基礎B I-2	・型紙基礎 ・革製品制作(基本アイテム) ②	1後	30	2		○		○				○
29	○			プロダクション基礎B I-3	・K展企画書作成 ・デザイン画応用 ①	1後	30	2		○		○				○
30	○			プロダクション基礎B I-4	・K展企画書作成 ・デザイン画応用 ②	1後	30	2		○		○				○
31	○			キャリアデザイン I	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する	1集中	30	2		○		○				○
32	○			キャリアデザイン II	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○				○
33	○			インターンシップ	企業とのインターンシップ	1集中	210	6			○	○	○			○
34	○			担任授業A II	社会人基礎力を充実させ、相手に伝えることを意識した表現を学ぶ(発想プロセス・プレゼンテーション)	2前	30	2		○		○				○
35	○			造形実習応用A II-1	・型紙応用 ・バッグ制作(基本アイテム) ①	2前	30	2		○		○				○
36	○			造形実習応用A II-2	・型紙応用 ・バッグ制作(基本アイテム) ②	2前	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)																	
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
37	○			造形実習応用AⅡ-3	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(WAXモデリング) ③	2前	30	2		○		○			○		
38	○			商品企画応用AⅡ-1	ポートフォリオ制作応用	2前	30	2		○		○				○	
39	○			商品企画応用AⅡ-2	和雑貨の企画制作 ①	2前	30	2		○		○				○	○
40	○			商品企画応用AⅡ-3	和雑貨の企画制作 ②	2前	30	2		○		○				○	○
41	○			ハンドメイド表現応用AⅡ-1	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(WAXモデリング) ①	2前	30	2		○		○				○	
42	○			ハンドメイド表現応用AⅡ-2	・ジュエリーデザイン基礎 ・ジュエリー制作(WAXモデリング) ②	2前	30	2		○		○				○	
43	○			ハンドメイド表現応用AⅡ-3	ショップ企画、運営、商品企画実習 ①	2前	30	2		○		○				○	○
44	○			ハンドメイド表現応用AⅡ-4	ショップ企画、運営、商品企画実習 ②	2前	30	2		○		○				○	○
45	○			プロダクション応用AⅡ-1	・型紙応用 ・縫製応用(量産、シリーズ制作) ①	2前	30	2		○		○				○	
46	○			プロダクション応用AⅡ-2	・型紙応用 ・縫製応用(量産、シリーズ制作) ②	2前	30	2		○		○				○	
47	○			プロダクション応用AⅡ-3	・型紙応用 ・縫製応用(量産、シリーズ制作) ③	2前	30	2		○		○				○	
48	○			プロダクション応用AⅡ-4	ブランディング基礎	2前	30	2		○		○				○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			担任授業BⅡ	・自己PR応用(デザイン発想プロセス、プレゼンテーション習得) ・社会人スキル習得	2後	30	2		○		○				
50	○			造形実習応用BⅡ-1	企業連携展(K展)展示作品制作(作品：布・革製品) ①	2後	30	2		○		○				○
51	○			造形実習応用BⅡ-2	企業連携展(K展)展示作品制作(作品：ジュエリー) ①	2後	30	2		○		○				○
52	○			造形実習応用BⅡ-3	web・ECサイト制作 ①	2後	30	2		○		○				○
53	○			商品企画応用BⅡ-1	K展ブランド企画、ディスプレイ計画、販促ツール作成 ①	2後	30	2		○		○				○
54	○			商品企画応用BⅡ-2	K展ブランド企画、ディスプレイ計画、販促ツール作成 ②	2後	30	2		○		○				○
55	○			商品企画応用BⅡ-3	web・ECサイト制作 ②	2後	30	2		○		○				○
56	○			ハンドメイド表現応用BⅡ-1	企業連携展(K展)展示作品制作(作品：ジュエリー) ②	2後	30	2		○		○				○
57	○			ハンドメイド表現応用BⅡ-2	企業連携展(K展)展示作品制作(作品：ジュエリー) ③	2後	30	2		○		○				○
58	○			ハンドメイド表現応用BⅡ-3	ニット制作基礎 ①	2後	30	2		○		○				○
59	○			ハンドメイド表現応用BⅡ-4	ニット制作基礎 ②	2後	30	2		○		○				○
60	○			プロダクション応用BⅡ-1	企業連携展(K展)展示作品制作(作品：布・革製品) ②	2後	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科ハンドメイドコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
61	○		プロダクション応用BⅡ-2	企業連携展(K展)展示作品制作(作品:布・革製品) ③	2 後	30	2	○			○			○	
62	○		プロダクション応用BⅡ-3	企業連携展(K展)展示作品制作(作品:鞆) ①	2 後	30	2	○			○			○	
63	○		プロダクション応用BⅡ-4	企業連携展(K展)展示作品制作(作品:鞆) ②	2 後	30	2	○			○			○	
合計					63	科目	132(2100)			単位(単位時間)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業時間2,100時間以上(132単位以上)の修得が卒業要件。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日	富永良子	〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日	徳山 豊	〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	商業実務専門課程	クリエイティブデザイン学科 コミックイラストコース	平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度			
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	絵を描くことに特化し、イラストの表現の幅を広げる訓練を多く重ねて、スキルアップを行う。技術応用・実践のためのプログラムとしてLive2Dモーション演習、映像制作ソフトAfter Effectsを使った演習を実施。学外での研修や実践プロジェクトを積極的に行い、コミックイラストの幅広い提案、実践力を身につける。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	
			132 単位	- 単位	126 単位	6 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
360 人	260 人	25 人	10 %					
就職等の状況	■卒業生数(C)		100	人				
	■就職希望者数(D)		72	人				
	■就職者数(E)		72	人				
	■地元就職者数(F)		65	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		90	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		72	%				
	■進学者数		11	人				
	■その他							
	帰国、療養等		(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL -					
当該学科のホームページURL	https://www.kid.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数						- 単位時間	
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						- 単位時間	
	うち企業等と連携した演習の授業時数						- 単位時間	
	うち必修授業時数						- 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						- 単位時間	
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						- 単位時間	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						- 単位時間	
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数						132 単位	
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						6 単位	
	うち企業等と連携した演習の授業時数						20 単位	
	うち必修授業時数						26 単位	
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						6 単位	
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						20 単位	
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						6 単位	
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				6 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				7 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				- 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人	
	計					15 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					10 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編成委員会の意見を反映した次年度教育計画を策定し、校長の承認をもって次年度の教育課程編成が確定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
圓城 新子	株式会社union.a	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
吉田 謙太郎	グランディング株式会社	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
横田 洸哉	京都クロスメディア推進戦略拠点	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
磯田 安広	京都芸術デザイン専門学校 コミックイラストコース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
池田 翔平	京都芸術デザイン専門学校 コミックイラストコース担任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
泉 了	京都芸術デザイン専門学校 コミックイラストコース担任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月28日 15:30～17:00

第2回 令和4年2月28日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

▼2D分野(CI/CD/VD)におけるカリキュラムの差別化について

2Dコースとして合同授業の実施を検討。その中で、偏愛マップの制作や自分の好きをプレゼンするワークを実施する。企業連携授業やインターンシップにおいて、ゲームジャムやハッカソンの取組みとして、連携企業にメンターを依頼するなどを検討

▼個人制作について

学校ではKIDプログラム、PJ型ISP、企業連携とグループワークを継続した取り組みとして、学生の社会人基礎力の向上につなげている。その一方で、個人の作家性や他者との違いにもコースからのフォーマットを通じて、特性を伸ばしていく場として第2課題を設定。

▼AIについて

授業の課題の中での使用方法、また評価についてコース内、また2D分野で共通認識を形成することが今後の課題として考えられる。その過程を通して、授業の中でどう取り入れていくかということも検討。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
イラストワークAⅡ-1	自ら構築した世界観のイメージを具体化し、キャラクターとの融合など精度の高い作品制作を行う。	株式会社武揚堂
イラストワークAⅡ-2	After Effectを使用して、静止画に様々なエフェクトや動きをつけて映像を制作する。	京都府警察本部
表現技法応用AⅡ-3	ターゲットの設定からマーケットリサーチ・企画会議を踏まえてニーズに対応する商品提案を行い、社会からの評価を得る。	株)80 & Company
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	株式会社ワンビリング、株式会社佐々木商

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。

①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修

②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修

③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修

これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： プロジェクト・マネジメント 連携企業等： コーン・フェリー・ヘイグループ(株)

期間： 令和5年1月6日 対象： 教職員全員

内容： コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 学生教職員のための実践心理 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和4年10月8日 対象： 新任教員

内容： 教育心理、授業運営技法

研修名： 専修学校における職業教育 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和4年11月5日 対象： 新任教員

内容： 多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ

研修名： 学生教職員のための実践心理② 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和4年11月19日 対象： 新任教員

内容： 教育心理、授業運営技法

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修 連携企業等： (株)エイトブランディングデザイン

期間： 令和6年1月予定 対象： 教員

内容： 教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 専門学校教育のあり方と授業実践① 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和5年10月21日 対象： 新任教員

内容： 教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ

研修名： 専門学校と制度 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和5年11月11日 対象： 新任教員

内容： 専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ

研修名： 専門学校教育のあり方と授業実践② 連携企業等： 一般社団法人職業教育・キャリア教育財団

期間： 令和5年11月25日 対象： 新任教員

内容： 教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(4)学修成果について

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			担任授業A I	自身の技術や能力のマネタイズ化や自分で考えること、グループワークや商品販売などの経験を通じて、自己肯定感を高め、自立(自律)に必要なことを学ぶ。	1前	60	4		○		○				
2	○			イラストワークA I-1	Illustratorを使用してデザインデータ制作のための基本操作を学ぶ。①	1前	30	2		○		○				○
3	○			イラストワークA I-2	Illustratorを使用してデザインデータ制作のための基本操作を学ぶ。②	1前	30	2		○		○				○
4	○			イラストワークA I-3	社会の様々な事例を研究し、ゲーミフィケーションの考えに基づいた課題解決のための企画を考える。①	1前	30	2		○		○				○
5	○			イラストワークA I-4	社会の様々な事例を研究し、ゲーミフィケーションの考えに基づいた課題解決のための企画を考える。②	1前	30	2		○		○				○
6	○			表現技法基礎A I-1	デジタルペイントソフトを用い、様々な用途のイラストを作成する技術を学ぶ①	1前	30	2		○		○				○
7	○			表現技法基礎A I-2	デジタルペイントソフトを用い、様々な用途のイラストを作成する技術を学ぶ。②	1前	30	2		○		○				○
8	○			表現技法基礎A I-3	Clip Studioを使用した基本のデジタルペインティング①	1前	30	2		○		○				○
9	○			表現技法基礎A I-4	Clip Studioを使用した基本のデジタルペインティング②	1前	30	2		○		○				○
10	○			作画基礎A I-1	人物の様々な表情・ポーズの描き方を学び、表現の選択肢を増やす。①	1前	30	2		○		○				○
11	○			作画基礎A I-2	人物の様々な表情・ポーズの描き方を学び、表現の選択肢を増やす②	1前	30	2		○		○				○
12	○			作画基礎A I-3	「物の見え方の法則」(透視図法)の基礎を学び、物や建物の描き方、そして効果的な表現法を学ぶ。①	1前	30	2		○		○				○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			作画基礎A I-4	「物の見え方の法則」(透視図法)の基礎を学び、物や建物の描き方、そして効果的な表現法を学ぶ。②	1前	30	2		○		○			○	
14	○			デッサン基礎A I-1	物体の立体感を観察し、表現するための絵画技法を習得する。①	1前	30	2		○		○			○	
15	○			デッサン基礎A I-2	物体の立体感を観察し、表現するための絵画技法を習得する。②	1前	30	2		○		○			○	
16	○			担任授業B I	進路確定に向けて、社会への視野を広げるため必要な情報を収集し準備を整える。	1後	30	2		○		○		○		
17	○			イラストワークB I-1	商業デザインの特徴と市場について知り、ニーズに合わせた商品をデザインするプロセスを学ぶ。①	1後	30	2		○		○			○	
18	○			イラストワークB I-2	商業デザインの特徴と市場について知り、ニーズに合わせた商品をデザインするプロセスを学ぶ。②	1後	30	2		○		○			○	
19	○			イラストワークB I-3	自己理解・進路研究の意義を理解し、基礎的な方法を演習を通じて習得する。①	1後	30	2		○		○			○	
20	○			表現技法基礎B I-1	デジタルペイントソフトを用い、様々な用途に応じるイラストを作成する技術を学ぶ。①	1後	30	2		○		○			○	
21	○			表現技法基礎B I-2	デジタルペイントソフトを用い、様々な用途に応じるイラストを作成する技術を学ぶ。②	1後	30	2		○		○			○	
22	○			表現技法基礎B I-3	自己理解・進路研究の意義を理解し、基礎的な方法を演習を通じて習得する。②	1後	30	2		○		○			○	
23	○			イラスト基礎B I-1	Adobe Premiereoの基本操作を習得し、映像を制作する。①	1後	30	2		○		○			○	
24	○			イラスト基礎B I-2	Adobe Premiereoの基本操作を習得し、映像を制作する。②	1後	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			イラスト基礎B I-3	Clip Studio・Photoshopの特徴を理解し、制作内容に合わせて使い分けてデザイン制作を行う。①	1後	30	2		○		○			○	
26	○			イラスト基礎B I-4	Clip Studio・Photoshopの特徴を理解し、制作内容に合わせて使い分けてデザイン制作を行う。②	1後	30	2		○		○			○	
27	○			作画基礎B I-1	アニメーションの基礎技法とそれぞれの特徴を学ぶ。①	1後	30	2		○		○			○	
28	○			作画基礎B I-2	アニメーションの基礎技法とそれぞれの特徴を学ぶ。②	1後	30	2		○		○			○	
29	○			デッサン基礎B I-1	物体と空間の関係性を把握し、平面上に表現するための絵画技法を習得する。①	1後	30	2		○		○			○	
30	○			デッサン基礎B I-2	物体と空間の関係性を把握し、平面上に表現するための絵画技法を習得する。②	1後	30	2		○		○			○	
31	○			キャリアデザインⅠ	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する。	1集中	30	2		○		○			○	
32	○			キャリアデザインⅡ	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○			○	
33	○			インターンシップ	企業とのインターンシップ	1集中	##	6			○	○			○	○
34	○			担任授業AⅡ	客観的な視点を意識し、進路決定のための情報収集・編集を行う。	2前	30	2		○		○			○	
35		○		イラストワークAⅡ-1	自ら構築した世界観のイメージを具体化し、キャラクターとの融合など精度の高い作品制作を行う。	2前	60	4		○		○			○	○
36		○		イラストワークAⅡ-2	After Effectを使用して、静止画に様々なエフェクトや動きをつけて映像を制作する。	2前	60	4		○		○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37	○		イラストワークAⅡ-3	企画の多様性を知り、今後のオンライン社会を見すえた構想と提案の思考法・表現法を身につける。	2 前	60	4	○			○		○		
38	○		イラストワークAⅡ-4	設定に基づく、作品の方向性や世界観を共有する事を目的とする、コンセプトアートを想定した制作を行う。	2 前	60	4	○			○		○		
39	○		表現技法応用AⅡ-1	デジタル、アナログ双方で、マンガの描き方を基礎から学習する。	2 前	90	6	○			○		○		
40	○		表現技法応用AⅡ-2	Live2D Cubism Editorを使用してキャラクターに動きを設定するためのスキルを身につける。	2 前	90	6	○			○		○		
41	○		表現技法応用AⅡ-3	ターゲットの設定からマーケットリサーチ・企画会議を踏まえてニーズに対応する商品提案を行い、社会からの評価を得る。	2 前	90	6	○			○		○	○	
42	○		表現技法応用AⅡ-4	明確な観察眼を持ち、光源、物体の構造、構成構図を見極め、作品を言説を伴って表現できる。	2 前	90	6	○			○		○		
43	○		イラスト応用AⅡ-1	社会連携課題を通じて、企画内容から問題を発見し解決へ導くための考える力を養い、それに応えるためのデザイン制作を行う。①	2 前	30	2	○			○		○		
44	○		イラスト応用AⅡ-2	社会連携課題を通じて、企画内容から問題を発見し解決へ導くための考える力を養い、それに応えるためのデザイン制作を行う。②	2 前	30	2	○			○		○		
45	○		イラスト応用AⅡ-3	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、広告等で実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。①	2 前	30	2	○			○		○		
46	○		イラスト応用AⅡ-4	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、広告等で実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。②	2 前	30	2	○			○		○		
47	○		イラスト応用AⅡ-5	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、広告等で実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。③	2 前	30	2	○			○		○		
48	○		作画応用AⅡ-1	現在までに確立されているデッサン表現の技法とその理論を学び、表現力の幅を広げる。①	2 前	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			作画応用AⅡ-2	現在までに確立されているデッサン表現の技法とその理論を学び、表現力の幅を広げる。②	2前	30	2		○		○			○	
50	○			作画応用AⅡ-3	1年次に習得した作画に説得力を与える演出方法を知り、各課題において根拠を持って活用する方法を学ぶ。①	2前	30	2		○		○			○	
51	○			作画応用AⅡ-4	1年次に習得した作画に説得力を与える演出方法を知り、各課題において根拠を持って活用する方法を学ぶ。②	2前	30	2		○		○			○	
52	○			担任授業BⅡ	社会連携課題の制作フローを理解し、展示に向けた準備を行う。	2後	30	2		○		○			○	
53		○		イラストワークBⅡ-1	自ら構築した世界観のイメージを具体化し、キャラクターとの融合など精度の高い作品制作を行う。	2後	60	4		○		○			○	
54		○		イラストワークBⅡ-2	After Effectを使用して、静止画に様々なエフェクトや動きをつけて映像を制作する。	2後	60	4		○		○			○	
55		○		イラストワークBⅡ-3	企画の多様性を知り、今後の社会を見すえた構想と提案の思考法・表現法・分析法を身につける。	2後	60	4		○		○			○	
56		○		イラストワークBⅡ-4	新しい時代のデジタルコンテンツを考え、作品のあり方を考察し、コンセプトアート、キービジュアル制作を行う。	2後	60	4		○		○			○	
57		○		表現技法応用BⅡ-1	オリジナルのマンガを作成し、雑誌への投稿、持ち込みまでを実践する。	2後	90	6		○		○			○	
58		○		表現技法応用BⅡ-2	Live2D表現を用いて、設定に沿ったコンテンツ提案を行う。	2後	90	6		○		○			○	
59		○		表現技法応用BⅡ-3	ターゲットの設定からマーケットリサーチ・企画会議を踏まえてニーズに対応する商品提案を行い、社会からの評価を得る。	2後	90	6		○		○			○	
60		○		表現技法応用BⅡ-4	明確な観察眼を持ち、光源、物体の構造、構成構図を見極め、作品を言説を伴って表現できる。	2後	90	6		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科コミックイラストコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
61	○		イラスト応用BⅡ-1	クライアントの要望から問題発見・解決へ導くための提案を作成し、修正希望に柔軟に対応するより完成度の高いデザインプロセスを実践する。①	2 後	30	2	○			○		○		
62	○		イラスト応用BⅡ-2	クライアントの要望から問題発見・解決へ導くための提案を作成し、修正希望に柔軟に対応するより完成度の高いデザインプロセスを実践する。②	2 後	30	2	○			○		○		
63	○		イラスト応用BⅡ-3	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、社会的に実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。①	2 後	30	2	○			○		○		
64	○		イラスト応用BⅡ-4	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、社会的に実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。②	2 後	30	2	○			○		○		
65	○		イラスト応用BⅡ-5	社会連携課題に対して発想したイラストデザインのクオリティを高め、社会的に実装可能な正確で失敗のないデータ制作を行う。③	2 後	30	2	○			○		○		
66	○		作画応用BⅡ-1	習得した観察眼と想像力の技術を意識して活用し、自分の作品とステートメントを作成できる。①	2 後	30	2	○			○		○		
67	○		作画応用BⅡ-2	習得した観察眼と想像力の技術を意識して活用し、自分の作品とステートメントを作成できる。②	2 後	30	2	○			○		○		
68	○		作画応用BⅡ-3	キャラクターの違いは動きであると理解し、動きと連動する作画をして作品意図を提示できる。①	2 後	30	2	○			○		○		
69	○		作画応用BⅡ-4	キャラクターの違いは動きであると理解し、動きと連動する作画をして作品意図を提示できる。②	2 後	30	2	○			○		○		
合計					69	科目		132(2100)			単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 授業時間2,100時間以上（132単位以上）の修得が卒業要件。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
京都芸術デザイン専門学校		昭和58年1月18日	富永良子	〒 606-8252 (住所) 京都市左京区北白川上終町3番地 (電話) 075-722-9231			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人瓜生山学園		昭和23年6月5日	徳山 豊	〒 606-8271 (住所) 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号 (電話) 075-791-9122			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程	クリエイティブデザイン学科 キャラクターデザインコース	平成12(2000)年度	-	令和 5(2023)年度		
学科の目的	芸術・デザインに関する専門知識及び技術を習得させ、実務者の養成を図ることを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	絵を描くだけでなく、デジタルイラスト、Live2D、CGなどデジタルコンテンツ制作を学ぶことで、デジタルメディアやアニメーション、ゲーム分野でのスペシャリストを養成。企業から広告宣伝ツールなどの受託制作の依頼を受け、企画・デザイン・納品など実際の仕事を体験し、実践力を積む。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
			132 単位	- 単位	126 単位	6 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
360 人	132 人	18 人	14 %				
就職等の状況	■ 卒業者数 (C)		33	人			
	■ 就職希望者数 (D)		21	人			
	■ 就職者数 (E)		21	人			
	■ 地元就職者数 (F)		19	人			
	■ 就職率 (E/D)		100	%			
	■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		90	%			
	■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		64	%			
	■ 進学者数		8	人			
	■ その他						
	帰国、病気療養		(令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)				
■ 主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) ANYCOLOR(株)、(株)Live2D、(株)コイズミデザインファクトリー、(株)メルプ、SHAPES、アド・アソシエイツ株式会社					
第三者による学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページ URL	https://www.kid.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数						- 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						- 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						- 単位時間
	うち必修授業時数						- 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						- 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						- 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						- 単位時間
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数						132 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						6 単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数						20 単位
	うち必修授業時数						26 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						6 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						20 単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						6 単位
教員の属性 (専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						6 人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						7 人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						- 人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						1 人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						1 人
	計						15 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員 (分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定) の数						10 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各学科・コースは、生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業復興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術などを十分に把握・分析した上で、教育課程の編成を行うこととする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

各学科・コースは、別途定める「教育課程の編成に関する規定」に則り、専攻分野に関して実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業、関係施設、業界団体等からの意見を聴取し、それを教育課程の編成に活用するため、「教育課程編成委員会」を設置し、年2回以上開催する。第1回目では当該年度の教育課程編成の考察及び分析に基づき、課題の抽出を行う。第2回目では、第1回目の課題を踏まえた改善計画に対する意見聴取及び協議を行う。そして教育課程編成委員会の意見を反映した次年度教育計画を策定し、校長の承認をもって次年度の教育課程編成が確定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月20日現在

名前	所属	任期	種別
伊豆田 千加	株式会社エーゲル	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
一本 可愛	株式会社スタジオトリガー	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
早川 弥彦	アイクリエイト(株)	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
横田 洸哉	京都クロスメディア推進戦略拠点	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
秋吉 亮	NPO法人AEYAC	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
富永 良子	京都芸術デザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
田村 篤昌	京都芸術デザイン専門学校 社会連携教育委員会委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
荒起 北斗	京都芸術デザイン専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中村 三友紀	京都芸術デザイン専門学校 教学課長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
大須賀 美穂	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
上野山 日菜	京都芸術デザイン専門学校 事務局	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
牛田 大地	京都芸術デザイン専門学校 キャラクターデザインコース コース主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月29日 15:30～17:00

第2回 令和5年2月20日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・次年度1年生前期にて新科目を開設。根拠の明確化・ストーリー構築などを授業課題に取り入れ【なぜ】を意識してプレゼンに臨める基礎を構築
- ・企業連携課題においてはアウトプット方法は固定化し、テーマ設定に幅を持たせた展開を図る
- ・次年度1年生後期から新科目を開設し、SNS配信にてフォロワー獲得を意識してコンテンツ力を高めることを意識させる
- ・キャラクターデザインコースのメインスキルは【Live2D】および【Blender】に設定。いずれも自由自在に操れるよう指導を強化
- ・K展では学んできたスキル・知識を明示したうえで、キャラクターデザインコースとしての《キャリアの可能性》を示す展示として提案展示を検討

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

産学連携教育を基本方針とし、学内では実践的且つ専門的な知識と技術のインプット型の教育を行う。学外では企業等と連携したインターンシップ実習によるアウトプット型の教育を行う。インターンシップを通し、産業界の実情を体感する機会とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習開始前に担任教員が企業の担当者と打ち合わせを行う。その上で生み出すべき教育効果・評価方法についての打ち合わせを行う。その後、学内にて意義、目的を学ぶ事前研修を実施する。企業担当者と教員で進捗状況及びについての情報交換を行う。出席状況の管理、教育効果の最大化に向けた授業内容の修正を都度行う。終了後は企業担当者による評価を得ると共に担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企画演習基礎BI-1	クライアント(依頼企業様)からの要望を理解して制作し、制作するうえでの想いをわかりやすく、キャラクターを効果的に用いて提案方法を学ぶ①	株式会社オスカーヤマト印刷
作画基礎A II-1	Live2Dが実現できる技術・表現方法を駆使して、自己表現に繋がるコンテンツや、詳細な仕様や規定に基づいてLive2Dを用いたモーションを設定し、キャラクターを動かす術を学ぶ	城陽市
デザイン技術基礎A II-1	クライアント(企業/団体/行政/社会等)からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ	株式会社ニッセン
企画演習基礎B II-1	クライアント(企業/団体/行政/社会等)からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ	豊彩株式会社
インターンシップ	社会や仕事に触れ、自分に足りない力を認識すると共に、社会人とのコミュニケーション能力を向上させる。企業から社会人としての評価を得、人間としての成長、今後の就職活動に活かせる経験と就職観を育む。	株式会社ワンビリング、有限会社ミホプロジェクト、有限会社エコラボ、株式会社おもしろい、株式会社谷印刷所 総36社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

別途定める「京都芸術デザイン専門学校教職員研修規定」に則り、本校業務に必要な知識及び技能を習得させ、その他その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させることを目的とした研修を行う。具体的には以下3つの区分の研修を計画的に実施する。

- ①企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修
- ②企業等と連携して、授業及び生徒に対する指導力等を修得・向上させるための研修
- ③業務上必要な、基礎的知識・基礎的技術を修得・向上するための研修

これらの研修は、学期毎に行われる「教員による自己評価」及び「学生による授業評価」の結果にもとづき、コース主任が個々の教員に対して改善すべき点を指摘の上、必要な研修を選定し受講させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	プロジェクト・マネジメント	連携企業等:	コーン・フェリー・ヘイグループ(株)
期間:	令和5年1月6日	対象:	教職員全員
内容:	コース・クラスをプロジェクトチームと捉え、教職員がグループワークや学生をマネジメントをするときに意識すべきことや目的を達成するためのメソッドを学び学生指導に生かす		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生教職員のための実践心理	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年10月8日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

研修名:	専修学校における職業教育	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月5日	対象:	新任教員
内容:	多様な人材養成を担ってきた専門学校の教育目的、方法に焦点をあて、職業教育の特徴を学ぶ		

研修名:	学生教職員のための実践心理②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年11月19日	対象:	新任教員
内容:	教育心理、授業運営技法		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	カリキュラムポリシー作成や検討に至るための研修	連携企業等:	(株)エイトブランディングデザイン
期間:	令和6年1月予定	対象:	教員
内容:	教育の目的や目指す方向性を検討し、コースブランディング化の研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践①	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年10月21日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

研修名:	専門学校と制度	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月11日	対象:	新任教員
内容:	専修学校制度の構造、専門学校を取り巻く環境や課題について学ぶ		

研修名:	専門学校教育のあり方と授業実践②	連携企業等:	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年11月25日	対象:	新任教員
内容:	教育環境の変化と教育の現状を知り、専修学校における教育や教員の役割等について学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校が行った自己評価の結果等について、企業・団体を中心とした学校に関係の深い方々に評価していただくことを基本とするもので、学校のみでの自己評価に終始せず外部からの意見を積極的に取り入れることで、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげるために実施する。学校関係者と教員等との”対話”と”気づき”を通して、次の3点を目的とし、学校関係者評価を行う。

- I 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- II 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- III 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(4)学修成果

本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岩崎 拓矢	株式会社イルカ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
川内 浩司	株式会社 MUJI HOUSE	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
小泉 達治	有限会社コイズミデザインファクトリー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
岩本 悠資	岩本繊維株式会社	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/85839b28f218a39e6c91ab1e4d9bc891.pdf>

公表時期: 令和5年10月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

地域社会に対して、本校の教育活動についての理解促進及び説明責任を果たす事を目的に「専門学校における情報提供等への取り組みに対するガイドライン」で定める項目について情報公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要と沿革、学校の教育目標と特色、教育理念・目的・人材育成
(2) 各学科等の教育	教育内容、定員数、入学者数、在校生数、成績評価、卒業・進級の認定
(3) 教職員	組織、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み、実習・実技などの取組み、企業等との連携、
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動・サークル活動、教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組み
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、就学支援措置
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価、自己評価結果の公表、学校関係者評価結果の公表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.kid.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/9ec2260a9fb33a6698265a16442c4476.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		担任授業A I	自身の技術や能力のマネタイズ化や自分で考えること、グループワークや商品販売などの経験を通じて、自己肯定感を高め、自立（自律）に必要なことを学ぶ	1前	60	4		○		○		○		
2	○		デジタル技術基礎A I-1	Illustrator・Photoshopの基本的な使い方を学び、加えて第3者に伝わり、美しいデザインとはを考えることで印刷物の制作を学ぶ①	1前	30	2		○		○			○	
3	○		デジタル技術基礎A I-2	Illustrator・Photoshopの基本的な使い方を学び、加えて第3者に伝わり、美しいデザインとはを考えることで印刷物の制作を学ぶ②	1前	30	2		○		○			○	
4	○		デジタル技術基礎A I-3	3次元でモノを見る3D空間を画面上で把握し、Blenderを使用して簡単なキャラクターを制作することに加え、他者に制作方法や意図を伝え合い、教え合うことの重要性を学ぶ①	1前	30	2		○		○			○	
5	○		デジタル技術基礎A I-4	3次元でモノを見る3D空間を画面上で把握し、Blenderを使用して簡単なキャラクターを制作することに加え、他者に制作方法や意図を伝え合い、教え合うことの重要性を学ぶ②	1前	30	2		○		○			○	
6	○		表現技法基礎A I-1	Live2Dの基本操作を理解し、分割したパーツを適切に稼働させキャラクターを動かすアニメーションの術を学ぶ①	1前	30	2		○		○			○	
7	○		表現技法基礎A I-2	Live2Dの基本操作を理解し、分割したパーツを適切に稼働させキャラクターを動かすアニメーションの術を学ぶ②	1前	30	2		○		○			○	
8	○		表現技法基礎A I-3	Live2Dの基本操作を理解し、分割したパーツを適切に稼働させキャラクターを動かすアニメーションの術を学ぶ③	1前	30	2		○		○			○	
9	○		表現技法基礎A I-4	人と違った発想の価値を理解し、根拠やストーリーをもとに他者に分かりやすく伝えることの重要性を理解し、その術を学ぶ	1前	30	2		○		○			○	
10	○		作画基礎A I-1	人体の構造と機能を理解し、様々な等身のキャラクターを描くことができるよう基礎画力を向上します。またパースを理解し、遠近法・透視図法・アイレベル・消失点を理解し立体把握力を学ぶ①	1前	30	2		○		○			○	
11	○		作画基礎A I-2	人体の構造と機能を理解し、様々な等身のキャラクターを描くことができるよう基礎画力を向上します。またパースを理解し、遠近法・透視図法・アイレベル・消失点を理解し立体把握力を学ぶ②	1前	30	2		○		○			○	
12	○		作画基礎A I-3	人体の構造と機能を理解し、様々な等身のキャラクターを描くことができるよう基礎画力を向上します。またパースを理解し、遠近法・透視図法・アイレベル・消失点を理解し立体把握力を学ぶ③	1前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
13	○		作画基礎A I-4	3次元でモノを見る3D空間を画面上で把握し、Blenderを使用して簡単なキャラクターを制作することに加え、他者に制作方法や意図を伝え合い、教え合うことの重要性を学ぶ③	1前	30	2		○		○			○	
14	○		デザイン技術基礎A I-1	画力基礎での人体の学習を基に、Live2Dで使用できるオリジナルキャラクターをCLIPSTUDIOで作成。描いたキャラクターに愛着を持ち、魅力的な人物描写・表現力向上を学ぶ①	1前	30	2		○		○			○	
15	○		デザイン技術基礎A I-2	画力基礎での人体の学習を基に、Live2Dで使用できるオリジナルキャラクターをCLIPSTUDIOで作成。描いたキャラクターに愛着を持ち、魅力的な人物描写・表現力向上を学ぶ②	1前	30	2		○		○			○	
16	○		担任授業B I	進路確定に向けて、目標を明確に定め、応募書類の作成や面接に対応できるコミュニケーション力の本質を学ぶ。	1後	30	2		○		○			○	
17	○		作画基礎B I-1	人体の構造とバランス・モーション・感情を正確に捉え、様々な等身のキャラクターを描くことができる。遠近法・透視図法・アイレベル・消失点等パースの基本を理解し背景を伴うキャラクターを描く術を学ぶ。①	1後	30	2		○		○			○	
18	○		作画基礎B I-2	人体の構造とバランス・モーション・感情を正確に捉え、様々な等身のキャラクターを描くことができる。遠近法・透視図法・アイレベル・消失点等パースの基本を理解し背景を伴うキャラクターを描く術を学ぶ。②	1後	30	2		○		○			○	
19	○		作画基礎B I-3	人体の構造とバランス・モーション・感情を正確に捉え、様々な等身のキャラクターを描くことができる。遠近法・透視図法・アイレベル・消失点等パースの基本を理解し背景を伴うキャラクターを描く術を学ぶ。③	1後	30	2		○		○			○	
20	○		表現技法基礎B I-1	前期で学んだLive2Dの基本的な技術を活用して、オリジナルキャラクターを動かす技術と知識を学ぶ①	1後	30	2		○		○			○	
21	○		表現技法基礎B I-2	前期で学んだLive2Dの基本的な技術を活用して、オリジナルキャラクターを動かす技術と知識を学ぶ②	1後	30	2		○		○			○	
22	○		表現技法基礎B I-3	3D空間の認識力を高める・ディテールにこだわり完成度を高める・知りたい情報や技術を学生間で共有し制作する技術と知識を学ぶ①	1後	30	2		○		○			○	
23	○		表現技法基礎B I-4	3D空間の認識力を高める・ディテールにこだわり完成度を高める・知りたい情報や技術を学生間で共有し制作する技術と知識を学ぶ②	1後	30	2		○		○			○	
24	○		デジタル技術基礎B I-1	ユーザー視点にたって見やすい・使いやすい・心地よいと感じることができるデザインとは何かを考え制作し、自身の考えをもとに説明する術を学ぶ①	1後	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
25	○		デジタル技術基礎B I-2	ユーザー視点にたっって見やすい・使いやすい・心地よいと感じることができるデザインとは何かを考え制作し、自身の考えをもとに説明する術を学ぶ②	1後	30	2		○		○			○	
26	○		デジタル技術基礎B I-3	ユーザー視点にたっって見やすい・使いやすい・心地よいと感じることができるデザインとは何かを考え制作し、自身の考えをもとに説明する術を学ぶ③	1後	30	2		○		○			○	
27	○		デジタル技術基礎B I-4	就活用として使用可能な、学びの成果・成長・ユーモアを取り入れたポートフォリオサイトの構築【ノーコードでのサイト制作】及び、SNSでのPFサイト配信の実行する術を学ぶ①	1後	30	2		○		○			○	
28	○		企画演習基礎B I-1	クライアント(依頼企業様)からの要望を理解して制作し、制作するうえでの想いをわかりやすく、キャラクターを効果的に用いて提案方法を学ぶ①	1後	30	2		○		○			○ ○	
29	○		企画演習基礎B I-2	クライアント(依頼企業様)からの要望を理解して制作し、制作するうえでの想いをわかりやすく、キャラクターを効果的に用いて提案方法を学ぶ②	1後	30	2		○		○			○ ○	
30	○		企画演習基礎B I-3	就活用として使用可能な、学びの成果・成長・ユーモアを取り入れたポートフォリオサイトの構築【ノーコードでのサイト制作】及び、SNSでのPFサイト配信の実行する術を学ぶ②	1後	30	2		○		○			○	
31	○		キャリアデザイン I	デザイン発想と協働に必要な知識を理解する	1集中	30	2		○		○			○	
32	○		キャリアデザイン II	・就職活動に必要な知識、スキルの復習、習得 ・具体的な企業エントリーの実施、準備	1集中	30	2		○		○			○	
33	○		インターンシップ	企業とのインターンシップ	1集中	210	6			○		○	○	○	
34	○		担任授業A II	視野を広く持ち、これまでの成長と成果を、就活に適した形で他者に伝える文章にする方法と、進路決定に向け、自身の成長と成果を整理し、他者に具体的に伝える方法を学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
35	○		デジタル技術基礎A II-1	様々なSNSの特徴を理解し、自身の取組や制作したオリジナルキャラクターのプロモーションの方法を考え、効果的な情報発信の在り方とファン獲得に向けた具体的な方法を学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
36	○		デジタル技術基礎A II-2	Blender(3DCG)を用いたアニメーション制作を主眼とし、新たな自己表現の術を学ぶ①	2前	30	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
37	○			デジタル技術基礎AⅡ-3	Blender（3DCG）を用いたアニメーション制作を主眼とし、新たな自己表現の術を学ぶ②	2前	30	2		○		○			○	
38	○			デジタル技術基礎AⅡ-4	Blender（3DCG）を用いたアニメーション制作を主眼とし、新たな自己表現の術を学ぶ③	2前	30	2		○		○			○	
39		○		表現技法基礎AⅡ-1	Unityの基本操作・表現できることを理解し、自身で企画立案したコンテンツ（ゲーム）の制作方法を学ぶ①	2前	60	4		○		○			○	
40		○		表現技法基礎AⅡ-2	Unityの基本操作・表現できることを理解し、自身で企画立案したコンテンツ（ゲーム）の制作方法を学ぶ②	2前	60	4		○		○			○	
41		○		表現技法基礎AⅡ-3	見る人に【伝わる】コンセプトメイキングや企画立案・AfterEffectやPremiere Proの基本操作・編集方法・映像制作のポイント、キャラクターを用いた自己表現の制作技術を学ぶ①	2前	60	4		○		○			○	
42		○		表現技法基礎AⅡ-4	見る人に【伝わる】コンセプトメイキングや企画立案・AfterEffectやPremiere Proの基本操作・編集方法・映像制作のポイント、キャラクターを用いた自己表現の制作技術を学ぶ②	2前	60	4		○		○			○	
43	○			作画基礎AⅡ-1	Live2Dが実現できる技術・表現方法を駆使して、自己表現に繋がるコンテンツや、詳細な仕様や規定に基づいてLive2Dを用いたモーションを設定し、キャラクターを動かす術を学ぶ①	2前	30	2		○		○			○	○
44	○			作画基礎AⅡ-2	Live2Dが実現できる技術・表現方法を駆使して、自己表現に繋がるコンテンツや、詳細な仕様や規定に基づいてLive2Dを用いたモーションを設定し、キャラクターを動かす術を学ぶ②	2前	30	2		○		○			○	○
45	○			作画基礎AⅡ-3	Live2Dが実現できる技術・表現方法を駆使して、自己表現に繋がるコンテンツや、詳細な仕様や規定に基づいてLive2Dを用いたモーションを設定し、キャラクターを動かす術を学ぶ③	2前	30	2		○		○			○	○
46	○			作画基礎AⅡ-4	Live2Dが実現できる技術・表現方法を駆使して、自己表現に繋がるコンテンツや、詳細な仕様や規定に基づいてLive2Dを用いたモーションを設定し、キャラクターを動かす術を学ぶ④	2前	30	2		○		○			○	○
47	○			デザイン技術基礎AⅡ-1	クライアント（企業/団体/行政/社会等）からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ①	2前	30	2		○		○			○	○
48	○			デザイン技術基礎AⅡ-2	クライアント（企業/団体/行政/社会等）からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ②	2前	30	2		○		○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			担任授業BⅡ	視野を広く持ち、これまでの成長と成果を、就活に適した形で他者に伝える文章にする方法と、進路決定に向け、自身の成長と成果を整理し、他者に具体的に伝える方法とキャリア構築に繋がる行動力を学ぶ	2後	30	2			○			○		
50	○			作画基礎BⅡ-1	学んできたLive2Dにて実現できる技術・表現を駆使して、応用を兼ねた自己表現とユーザーの求める作品制作について学ぶ①	2後	30	2			○					○
51	○			作画基礎BⅡ-2	学んできたLive2Dにて実現できる技術・表現を駆使して、応用を兼ねた自己表現とユーザーの求める作品制作について学ぶ②	2後	30	2			○					○
52	○			作画基礎BⅡ-3	学んできたLive2Dにて実現できる技術・表現を駆使して、応用を兼ねた自己表現とユーザーの求める作品制作について学ぶ③	2後	30	2			○					○
53	○			表現技法基礎BⅡ-1	学んできたLive2Dにて実現できる技術・表現を駆使して、応用を兼ねた自己表現とユーザーの求める作品制作について学ぶ④	2後	30	2			○					○
54	○			表現技法基礎BⅡ-2	Web業界のトレンドを踏まえ、卒業後の運用を想定し企画・コンセプトの構築に基づいた収益化できる自己プロモーション用のWebサイトをノーコードで完成させる術を学ぶ①	2後	30	2			○					○
55	○			表現技法基礎BⅡ-3	Web業界のトレンドを踏まえ、卒業後の運用を想定し企画・コンセプトの構築に基づいた収益化できる自己プロモーション用のWebサイトをノーコードで完成させる術を学ぶ②	2後	30	2			○					○
56	○			表現技法基礎BⅡ-4	Web業界のトレンドを踏まえ、卒業後の運用を想定し企画・コンセプトの構築に基づいた収益化できる自己プロモーション用のWebサイトをノーコードで完成させる術を学ぶ③	2後	30	2			○					○
57		○		デジタル技術基礎BⅡ-1	Blender(3DCG)を用いたアニメーション制作を主眼とし、これまでの知識と技術を応用した、新たな自己表現の術を学ぶ①	2後	30	2			○					○
58		○		デジタル技術基礎BⅡ-2	Blender(3DCG)を用いたアニメーション制作を主眼とし、これまでの知識と技術を応用した、新たな自己表現の術を学ぶ②	2後	30	2			○					○
59		○		デジタル技術基礎BⅡ-3	Blender(3DCG)を用いたアニメーション制作を主眼とし、これまでの知識と技術を応用した、新たな自己表現の術を学ぶ③	2後	30	2			○					○
60		○		デジタル技術基礎BⅡ-4	Blender(3DCG)を用いたアニメーション制作を主眼とし、これまでの知識と技術を応用した、新たな自己表現の術を学ぶ④	2後	30	2			○					○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 クリエイティブデザイン学科キャラクターデザインコース)																
No.	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
61	○			企画演習基礎B II-1	クライアント（企業/団体/行政/社会等）からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ①	2後	30	2	○			○		○	○	
62	○			企画演習基礎B II-2	クライアント（企業/団体/行政/社会等）からの依頼・要望を理解し、クライアントが抱える課題や問題を、キャラクターを用いた企画や発想で解決策となる、根拠をもとにした提案の方法を学ぶ②	2後	30	2	○			○		○	○	
63	○			キャラクタービジネス	様々なSNSの特徴を理解し、自身の取組や制作したオリジナルキャラクターのプロモーションの方法を考え、効果的な情報発信の在り方とファン獲得に向けた具体的な方法を学ぶ	2後	30	2	○			○		○	○	
合計						63	科目		132	(2100)	単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 授業時間2,100時間以上（132単位以上）の修得が卒業要件。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 前期および後期開始前に履修登録を行い、出席率が授業時間数の3分の1以上であること。定期試験等の実施により成績判定を行い、100点満点中60点以上の場合に単位認定を行う。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。